

東日本大震災の復興から 日本創生へ

いまだ多くの被災者が苦痛を強いられている。
復興までの道のりは険しいが、
犠牲者に対する哀悼を重ねつつ、
この国難を乗り越え、
日本を力強くよみがえらせねばならない。
震災で親を亡くした子供たちの、
将来の日本を背負って立つ青少年の、
教育を支援する「りんりん基金」。
わたしたちの真心の結集が、
わが国の未来と希望をつなぐ。
復興にちからを、教育に光を。



寄付金 1口1万円

※1口よりありがたくお受けいたします

銀行振込み(ATM、ネットバンキング等)の場合

三井住友銀行(銀行コード:0009)

神田支店(支店コード:219)

普通口座 2907157

口座名義 (社)倫理研究所 りんりん基金口

シャ)リンリケンキュウジョリンリンキキングチ

銀行窓口で振込みの場合

口座名義 りんりん基金口 ※名義のみで振込めます

現金書留の場合

〒101-8385(住所不要)

(社)倫理研究所 総務部 りんりん基金宛

※基金の運用につきましては、倫理研究所常任理事会にて決定し、

『倫研新報』とホームページにて随時お知らせいたします。

※ご寄付の受付は、平成23年12月31日をもって締切りとします。

被災者に凜々たる
勇気と元気を！
「りんりん基金」
に真心の寄付を！

■ホームページ

<http://www.rinri-jpn.or.jp>

■お問合せ 社団法人倫理研究所 総務部/電話 03-3264-2251(代)

倫理研究所

検索

財

産、会社、家のすべてが一瞬で流された。幸い家族は無事だったが、震災から一息ついた今、私には仕事がない。子供たちは進学をあきらめ、故郷を捨て、仕事を求め都会に行くというが、彼らの希望を失わせたくない。

(宮城県倫理法人会 Aさん)

水

も電気もない避難場所で、震災直後に出産した。これからどう育てたらよいか分からない。

(家庭倫理の会 石巻 Bさん)

メ

キメキと音を立てて破壊していく津波に、流されていく家屋、車。その中で、三歳の子供が流されてきた。急いで引き上げ一命は取りとめたが両親の姿はない。やがて、その子は避難所か

ら自衛隊員に連れられていった。あの今は今どうしているだろうか……。

(福島県倫理法人会 Tさん)

避

難所の物資や食料は飽和状態と被災者から聞いた。必要なのは、やはりお金なんだ。

(家庭倫理の会 岩手 Mさん)

物

はある程度までいくといらなくなる。これから必要な支援とは、どんな環境下でも生きていくことのできる心と智慧。これは教育によってしか得られない。よき師、よき書物、よき環境との出会い。時間はかかるが本当の復興は人の成長にある。

(北海道・東北方面長 荒木良仁)

訪

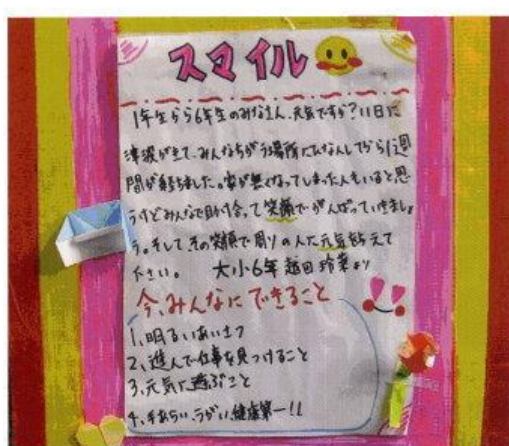
ねた避難所では、親を亡くした子供たちが無邪気にトランプをしていた。彼らが現実を受け止められる年代になった時、どこで生活し、どういう教育を受けているのだろう。長期的な支援を切に願う。

(北海道・東北管区長 田島康賢)

諦めないって言いたいですね。

絶対にいいことあるよ、希望だね。

(家庭倫理の会 石巻 Kさん)



被災者に凜々たる
 勇気と元気を！
 「りんりん基金」
 に真心の寄付を！